

平成30年度 消防長の目標宣言 達成状況報告

消防長 吉川 敏勝

NO.	取組名 (担当課名)	取組内容	達成目標	取組結果 今後の取組の方向性	目標達成状況
1	火災予防の推進 (予防課) (警備1課) (警備2課)	住宅用火災警報器の設置促進と維持管理の啓発を実施します。 事業所の防火査察の実施を実施し、防火管理体制の充実を図ります。 火災発生件数の減少に取り組めます。	住宅用火災警報器設置率 目標設置率 84% (平成29年設置率 83%) 立入検査実施目標棟数 年間 400棟 建物火災発生件数目標(年中) 過去3年間の平均の16件以下	住宅用火災警報器の啓発は、市広報誌や市HP、火災予防運動などにおいて実施しました。神奈中バスや大山ケーブル内での広報、企業や消防団の協力も頂き実施しましたが目標には達しませんでした。 事業所の防火管理体制の充実に向け防火査察を実施し、事業所の火災予防対策の確保として、消防設備の維持管理、防火管理体制の確認を行い、不備等がある場合は是正指導を行いました。目標の棟数には達することが出来ませんでした。指導による是正の確認の強化も行っています。 火災発生件数は減少しましたが、市民、事業所等への火災予防の啓発の実施により減少したのか又、他の要因による減少なのかを十分判断する必要があります。 [今後の取組の方向性] 火災発生件数を減少させ市民の財産を守るため、火災予防思想の普及啓発を引き続き実施する必要があり、事業を継続して進めます。	設置率 83% 立入検査実施 382棟 建物火災発生件数 15件
2	救急体制の充実 (警防救急課) (警備1課) (警備2課)	救命講習会を開催し救急技術の向上を目指します。 職員の救急救命士の養成を行います。 救命率の向上を目指します。 (救命率:心肺停止より病院搬送時回復した率)	救命講習会 年間予定回数 150回 参加者目標 5,000人 救急救命士養成 1名 救命率(年中) 過去3年間の平均の34.9%以上	市民の応急救護の救急技術を向上させるため講習会を実施しました。 消防職員を養成所に派遣し研修を実施し、国家試験を受験させました。 市民への救命講習や消防職員の研修により救急搬送時の救命率の向上を目指しましたが目標には達しませんでした。 [今後の取組の方向性] 一人でも多くの市民が救命技術を学び応急処置を行う事が出来るよう継続し講習会を開催します。消防職員も高度な応急処置が出来る救急救命士の増員を図ります。	年間実施回数 157回 参加者目標 4,925人 救命士養成 1名 救命率 30.9%

NO.	取組名 (担当課名)	取組内容	達成目標	取組結果 今後の取組の方向性	目標達成状況
3	消防体制の強化充実 (警防救急課) (消防総務課)	消防水利の新設、消防車両の更新を行います。 消防団員の災害活動のため、車庫待機室の整備、活動資機材の整備を行います。 消防庁舎の整備について検討を進めます。	消火栓新設 1基 高規格救急車 1台 小型動力ポンプ積載車 2台 第5分団第5部車庫待機室整備 (建築設計実施) 活動資機材整備 1式 (トランシーバー、保安帽等整備) 庁舎整備検討の推進	消防力の維持強化のため消火栓の設置を行い、伊勢原大山インターチェンジの開通に向け高規格救急車を増車し、救急隊を本署に2隊体制にしました。 消防団活動の確保のため小型動力ポンプ積載車を整備しました。自動車免許制度の改正により普通免許でも運転できるよう車種変更を行いました。また、車庫待機室の設計、団員の安全対としての資機材も整備が出来ました。 老朽化している本署庁舎の整備について検討を行いました。 [今後の取組の方向性] ・消防体制の強化充実については、計画的な資機材の更新を行う事や庁舎整備の検討も継続的に実施します。	消火栓新設 1基 高規格救急車 1台 小型動力ポンプ積載車 2台 第5分団第5部車庫待機室設計完了 活動資機材 整備済 庁舎整備検討の実施
4	近隣市との連携 (警備1課) (警備2課) (警防救急課)	大規模災害に対応するため、近隣市と災害対応について、合同訓練等により連携の強化を進めます。	合同訓練の実施	近隣市や川崎市と消防訓練を実施しました。東名高速道路や新東名高速道路の応援態勢の整備も取組みました。 [今後の取組の方向性] 引き続き近隣市等との消防連携を強化し、大規模災害時の消防活動が十分出来るよう合同訓練を継続的にを行います。	・県央地区消防合同訓練、川崎市航空隊、県警察との合同訓練等を実施
5	事務改善 (全課)	効率の良い事務執行、職員研修、訓練の充実に努めます。	事務改善 職員研修の強化	効率の良い事務執行へ取組を行いましたが、大雨時等の出勤等が増加し、時間外勤務の削減は困難でした。 消防職員に必要な研修を県消防学校や消防大学等で実施しました。また、救急救命士等の研修も行い、各種災害に対応した活動訓練の充実も取組み資質向上に努めました。 [今後の取組の方向性] ベテランの職員が減る中、経験の浅い職員が多くなっているため事務執行の改善や研修・訓練を進めます。	消防学校、消防大学等での研修受講・